

**製品名: Bcl-x (リン酸化 Thr47) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04313**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	30kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BCL2L1
別名	BCL2L1; BCL2L; BCLX; Bcl-2-like protein 1; Bcl2-L-1; Apoptosis regulator Bcl-X
遺伝子 ID	598.0
SwissProt ID	Q07817
免疫原	抗血清は、Thr47 のリン酸化部位周辺のヒト BCL-XL 由来の合成ペプチドに対して産生された。 アミノ酸範囲: 13-62

**背景**

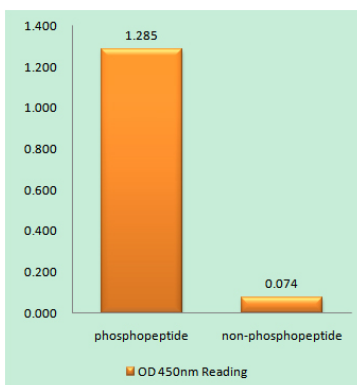
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、BCL-2 タンパク質ファミリーに属します。BCL-2 ファミリーのメンバーはヘテロ二

量体またはホモ二量体を形成し、多様な細胞活動に関与する抗アポトーシスまたは促進アポトーシス制御因子として機能します。この遺伝子によってコードされるタンパク質はミトコンドリア外膜に位置し、ミトコンドリア外膜チャネル (VDAC) の開口を制御することが示されている。VDAC はミトコンドリア膜電位を制御し、ミトコンドリアによる活性酸素種の産生とシトクロム C の放出を制御します。これらはどちらも細胞アポトーシスの強力な誘導因子です。選択的スプライシングにより、2つの異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。長いアイソフォームはアポトーシス抑制因子として機能し、短いアイソフォームはアポトーシス活性化因子として機能します。[RefSeq 提供、2015年12月]、ドメイン: BH4 モチーフは抗アポトーシス活性化に必要です。BH1 および BH2 モチーフは、他の Bcl-2 ファミリーメンバーとのヘテロ二量体形成と細胞死の抑制の両方に必要である。機能: 細胞死の強力な阻害剤。アイソフォーム Bcl-X(L)の抗アポトーシス活性は、SIVA アイソフォーム 1 との結合によって阻害される。カスパーゼの活性化を阻害する (類似性による)。電位依存性アニオンチャネル (VDAC) に結合し、ミトコンドリア膜からのカスパーゼ活性化因子であるシトクロム c の遊離を阻害することで、VDAC を遮断し、細胞死を制御すると考えられる。Bcl-X(S)アイソフォームはアポトーシスを促進する。PTM: アポトーシス中にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断される。BH4 モチーフを欠く切断タンパク質は、アポトーシス促進活性を持つ。類似性:Bcl-2 ファミリーに属します。細胞内局在:ミトコンドリア膜および核周囲エンベロップ。サブユニット:Bcl-X(L) は、BAX、BAK、BCL2 とホモ二量体およびヘテロ二量体を形成します。BAX とのヘテロ二量体形成は、抗アポトーシス活性には必要ないようです。また、BAD および BBC3 と相互作用します。アイソフォーム Bcl-X(L) は、Siva アイソフォーム 1 に結合します。BCL2L11 と相互作用します (類似性により)。BECN1 および PGAM5 と相互作用します。アイソフォーム Bcl-X(L) は、BAX アイソフォーム Sigma と相互作用します。組織特異性:Bcl-X(S) は、発達中のリンパ球など、ターンオーバー率の高い細胞で高レベルで発現しています。対照的に、Bcl-X(L)は成人の脳などの長寿命の有糸分裂後細胞を含む組織に存在します。

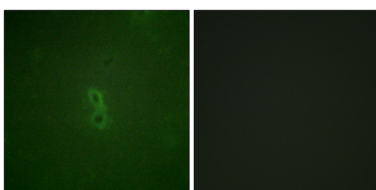
## 研究分野

アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、Jak\_STAT、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、がんの経路、膵臓がん、慢性骨髄性白血病、小細胞肺癌。

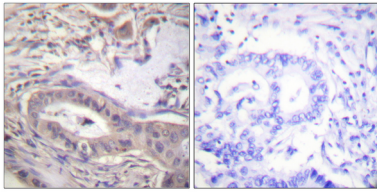
## 画像データ



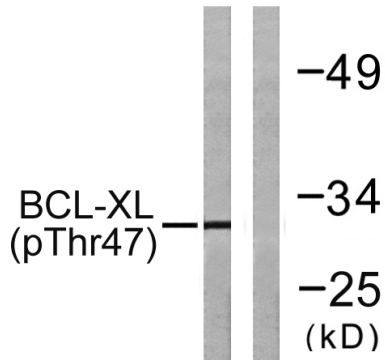
BCL-XL (リン酸化 Thr47) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



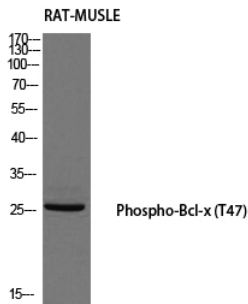
BCL-XL (リン酸化 Thr47) 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



BCL-XL (リン酸化 Thr47) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 30 処理した 293 細胞ライセートの BCL-XL (リン酸化 Thr47) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Bcl-x (T47) 抗体を用いた RAT-MUSCLE のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。